



THE A MUSEUM

Vol.1-2 第2号 2006.10.1

Saitama Prefectural Museum of History and Folklore

特別展

由来 伝来 名刀の一千年

平成十八年十月七日(土)～十一月十九日(日)

同時開催●埼玉県刀剣保存協議会 第50回名刀展

「名刀」という言葉を聞くと「正宗」や「虎徹」など刀工の名前をまず思い浮かべるのではないだろうか。名工の特徴ある刀の姿や刃文等を鑑賞する、美術工芸品としての刀の魅力は日本独特のものである。

それに加え、「○○氏の愛刀」、「○○大名家ゆかりの刀」という「由来や伝来」も私たちが刀に惹きつけられるもう一つの魅力と思われる。一千年の時の流れの中で、刀がたどった歴史を追ってみましょう。「武器」という性格だけでは語れない、歴史資料としての刀が浮かび上がってきます。



目次

- ◆特別展
「由来 伝来 名刀の一千年」…… 2
- ◆第1回民俗芸能公演
「里神楽と木遣り」…… 4
- ◆企画展「天下をまわって1300年
お金めぐる社会史」(終了報告)…… 5
- ◆博物館を虫・カビから守るために
～博物館でのIPM～…… 6
- ◆イベントインフォメーション…… 7
- ◆わざの体験学習…… 7
- ◆博物館情報…… 8

プロローグ・来世を見守る刀

死者とともに武器を埋葬（副葬）する慣習は弥生時代から始まったようです。次の古墳時代になると、地域の首長墓である古墳が数多く造られ、刀や剣が副葬された事例も多くみられます。埋葬者の愛用品だったのか、埋葬時の装束の一部だったのか、呪術的な意味から納められたのか・・・。

いずれにしても、副葬された刀には来世に旅立つ故人への深い思いが込められていました。

主な展示資料：岩手県平泉町中尊寺金色堂須弥壇内に副葬された呑口式打刀（重要文化財・中尊寺・写真1）

1. 華麗なる奉納刀の世界

戦勝祈願、大願成就のお礼、社寺造営記念、故人の遺品の奉納などさまざまな理由から社寺への宝物奉納が行われてきました。

奉納刀の中には荘厳な拵が付くものも多く、奉納者がさまざまな意匠を凝らし、装飾性に優れた



写真1 奥州藤原氏ゆかりの呑口式打刀（重要文化財・中尊寺蔵）



写真2 上杉家信ゆかりの太刀・姫鶴一文字（重要文化財・米沢市上杉博物館）

太刀拵が造られました（写真3・4）。

ところで、神社への奉納宝物は奉納者が誰なのか、伝承のみの場合も少なくありません。それに対し、刀の刀身や茎に奉納者、制作刀工、年月日、奉納先などを彫ったものがあります。当館の景光・景政合作の太刀は、嘉暦4年（1329）に武蔵武士丹党大河原氏が景光と景政に作刀させ、兵庫県姫路市広峰神社に奉納したものであることが銘文からわかります。

このように由来が刀身に刻まれた刀は、歴史資料として重要な意味を持っています。

主な展示資料：大河原氏の子孫・丹治之清が長船勝光に作刀させた太刀（兵庫県宍粟市指定文化財・波賀八幡神社）、小山義政が備中青江の吉次に作刀させた太刀（重要文化財・鷺宮神社）

2. 中世武蔵の戦国模様

戦国武將は自分の手元に著名な刀工の刀を数多く所有していました。彼らにとって刀は武器であり、宝物でもあったのです。

そして、中世の争乱の中では、主従関係の確認、恩賞、敵方との駆け引きにともなう贈答を目的としてさまざまな文物が行き交いました。刀も例外ではなく、献上・下賜されました。この時に使用される刀は「数打ち物」と言われる実用的な量産品ではなく、「然る可き物」と言われる名工が作刀した特別なものでした。

ここでは戦国時代の埼玉の動向を紹介しながら、武蔵の戦国武將ゆかりの武器・武具を紹介します。

主な展示資料：上杉家ゆかりの太刀・姫鶴一文字（重要文化財・米沢市上杉博物館・写真2）、上杉謙信ゆかりの短刀 銘 景光（国宝・当館・表紙写真）、後北条氏ゆかりの太刀・綱広・綱家・康国（重要文化財・鶴岡八幡宮）

3. 武士のステータスシンボル

江戸時代は、太平の世へと時代が変わったことで、刀は実戦に使用する武器というよりは武士の身分を表すものとなりました。「刀は武士の魂」と言われるように、武士のみ帯刀が許されました。名刀を所持することは、武士の誇りでもあり、家宝として代々大切に伝えられました。また、将軍と武士の間、藩主と藩士の間では刀の贈答儀礼が



上：写真3 北条氏ゆかりの三鱗文兵庫鎖太刀（重要文化財・東京国立博物館蔵）

下：写真4 将軍家光が仙波東照宮に奉納した太刀 銘 友成（重要文化財・喜多院蔵）

頻繁に行われ、主従関係など互いの絆を深めることに役立ちました。幕府編纂の歴史書である『徳川実紀』をみると、さまざまな場面で刀の贈答儀礼が行われたことがわかります。

主な展示資料：日光社参に際して将軍家綱から岩槻藩主が拝領した定利の太刀（国宝・東京国立博物館・写真5）、将軍吉宗が家臣に与えた熊野三所権現長光の太刀、（国宝・個人）、『享保名物帳』に記載された忍藩主阿部家ゆかりの刀・横須賀郷（重要美術品・白河集古苑）

エピローグ・民俗行事の中に息づく刀剣

明治9年（1876）に廃刀令が出され、実用品

としての刀は徐々に姿を消していきました。しかし、民俗行事の中には五月の節供に使われた「菖蒲刀・ドヤ」や「大山信仰と奉納木太刀」など刀剣を使用する行事があります。菖蒲刀は邪気や疫神を祓うという菖蒲の持つ力に由来します。刀剣は祭器として人々の生活の中に生き残ってきました。

（展示担当 水口由紀子・杉山正司）

特別展関連の催し物のお知らせ

1 講演会「戦国武将と名刀」■

10月22日（日）午後1時30分～3時

講師：小笠原信夫氏（東京国立博物館 名誉館員）

1か月前から電話受付、先着順 150名、聴講無料。

2 子供向け体験学習 ■

10月28日（土）午前10時～12時、午後1時30分～3時30分

内容：ペーパークラフト国宝景光の短刀をつくろう

当時申し込み、定員30名、参加費100円。

3 実演会（刀研師・白銀師・刀身彫師・白鞘師・柄巻師）■

11月3日（祝日・金）午前10時～12時、午後1時30分～3時30分

申し込み不要、見学無料。

※上記1～3は特別展を御覧になる際は特別展観覧料が必要です。

◆ 学芸員による展示解説 ◆

10月14日（土）、10月21日（土）、11月11日（土）、11月19日（日）

各回とも14時から。特別展観覧料が必要です。



写真5 岩槻藩ゆかりの太刀 銘 定利（国宝・東京国立博物館蔵）

第1回民俗芸能公演

里神楽と木遣り

日時：平成18年11月5日（日） 13:00～16:00

会場：さいたま芸術劇場大ホール

昭和55年11月に開所し、「わざの博物館」として県民に親しまれていた埼玉県立民俗文化センターは、埼玉県立博物館と統合し、今年4月に埼玉県立歴史と民俗の博物館として新しく生まれ変わりました。

民俗芸能公演も、昨年度までは300人程度収容可能な民俗文化センターホールを会場として実施してきましたが、統合後記念すべき第1回目の公演は、さいたま芸術劇場の大ホール（776名収容）を借りて、開催することといたしました。

出演団体は、江戸里神楽が岡田民五郎社中（さいたま市）、石山大隅社中（新座市）の二団体、木遣歌が浦和木遣保存会（さいたま市）の一団で、合計3団体が日ごろの稽古で鍛えた自慢のワザを披露いたします。

公演当日の流れを順を追って紹介すると、**寿獅子舞**（岡田社中）→**祝い木遣**（木遣保存会）→**里神楽「天之岩戸」**（岡田社中）→**里神楽「禊（笛一管）」**（石山社中）→**里神楽「大蛇退治」**（石山社中）→**締め木遣**（木遣保存会）と江戸囃子の予定です。

このほか本質的には無言劇（パントマイム）である里神楽の所作の解説（どんな意味をもっているのか）や神楽囃子についての実演入り解説もいたします。神楽が奉納される神社等では、まず聞

くことの出来ない当館が主催する民俗芸能公演ならではの解説にご期待ください。

里神楽の世界では、神様が活躍する『古事記』に取材した演目が非常に多く、今回演じるものを除いても、「八雲神詠」や、「天之返矢」、「菩比神使」、「黄泉醜女」、「兄弟探湯」、「山海交易」、「天孫降臨」、「幽頭分界」などがあります。

通常の場合、里神楽で用いられる楽器は、大拍子・大太鼓・笛という構成になっていて、長老格の人が大拍子を担当して、オーケストラにおける指揮者の役割をしています。ニンバという曲のみ締太鼓と鉦が加わります。

今回演じる「禊」も、普段は大拍子・太鼓・笛による伴奏ですが、荘重な雰囲気醸し出すために、笛一管という特殊形態を採用しました。

内容は、亡くなったイザナミノミコトを慕って黄泉の国に行ったイザナギノミコトが現世に戻ってきた時に、けがれを浄めるというもので、里神楽の中でも格別位の高い演目とされています。

木遣りは、建築作業の時に大木など重いものや大きいものを移動させるきっかけを得る必要から生まれたとされていますが、後には慶事の席でも歌われるようになったといわれています

（民俗文化担当 針谷浩一）



里神楽「大蛇退治」



「禊（笛一管）」

和同開珎がつくられてやがて 1300 年を迎えます。また今年、江戸時代の寛永通宝の鑄造から 380 年、戦後の新円切替から 60 年という節目の年にもあたります。この機会に、当館に寄託されている国内有数の貨幣コレクションである旧埼玉銀行コレクションを中心として、私たちの生活に欠くことのできないお金にまつわる企画展が、7 月 15 日（土）～8 月 31 日（木）まで開催されました。

会場ですぐ観覧者を待ち構えているのが、千両箱の体験コーナーです。電子マネーが氾濫する今日、重さ 20kg、現金の重みをずしりと体感していただきました。そしてお金といえばやはり大判小判。特に黄金色にかがやく大判は、会場でも大変な存在感で見ると人に迫ってきます。ずらりと並んだ小判も、時代によって大きさや顔つきがちがいます。時期によって金の含有量が変わり、価値も変わりました。

存在感と言えば中世の埋納銭も負けてはいません。東京都府中市内のビル工事の際、2 つの大きな常滑焼の甕が出てきました。石のふたを開けるとあわせて 16 万枚、総重量なんと 600kg の古銭が入っていました。これほど大量のお金をだれがなんのために埋めたのかまだ解明されていません。



江戸時代の大判小判



会場風景

今回の展示では民俗資料のなかのお金にも目を向けました。暮れの酉の市で売られる縁起物の熊手。その飾りになくてはならないものが、金の俵に大判小判。広告チラシの元祖明治時代の引札にも、大地震におののく世間をユーモラスに風刺した江戸末期の鯰絵の中にも、小判が乱れ飛んでいます。千両箱を背負って複雑な表情をした五関の張子人形も印象的です。

会期中お金や財宝に関連する歴史民俗講座が 2 回開かれ、また夏休み子ども体験教室「昔のお金を作ろう」も、自作のお金を手にした子供たちに好評でした。高度成長期の埼玉を記録したなつかしの「埼玉ニュース」、紙幣の製造と歴史をわかりやすく教えてくれる、お札と切手の博物館から借用させていただいたビデオにも、たくさんの方々が見入っていました。

電子マネーの時代に、ずしりと重いお金の存在感を再認識されてくれた企画展も無事終了しました。

(展示担当 田中英司)



福熊手 小判山

博物館資料を虫・カビから守るために

～博物館でのIPM (Integrated Pest Management)～

【博物館と虫・カビ】

博物館が収蔵している貴重な資料は、紙、木材、竹材、皮革、絹、毛織物など様々な素材から作られています。これらの多くは、害虫による食害や汚損を受けやすいものです。一般の家庭でもタンスの中の衣類や箱の中の人形などいつの間にか“虫にやられた”ということは、よくある話です。博物館の資料においても、これと同じ被害が十分に起こり得ることなのです。カビについても、じめじめとした季節には、湿度が高く、空気が淀んだ場所で発生しやすくなります。

資料（文化財）の虫害は、木材や書籍の内部の穿孔食害や表面をかじるように食害するもの、また糞による汚損もあります。カビの害は、分泌物による汚れや素材の強度劣化などがあります。

【虫・カビのチェック】

虫・カビ害から資料を守るため、まず、博物館の中にどのような虫が侵入し、潜んでいるのかを調査します。そのグッズに、粘着トラップというものがあります。紙でできた“虫の家”のようなもので、中の床には粘着剤が塗ってあります。これを、虫が通りそうな所に仕掛けておき、粘着剤に捕まった虫の種類と数をチェックします。

カビは、温度と湿度の管理と生えやすい場所が清浄になっているかをチェックします。カビは温度と湿度の関係で生えてきますので、温度と湿度は継続的に測ることが必要です。

【虫・カビの防除対策】

虫・カビのチェックに基づき、必要な対策を立てていきます。その基本は、“持ち込まない”“引きつけない”“増やさない”です。“持ち込まない”対策は、出入り口の開放時間を短くし、窓に網戸を設置するなどです。また、新たに外部から搬入される資料は、薬剤による殺虫処理（燻蒸）してから搬入するようにしています。“引きつけない”対策は、館内に虫が寄るようなものを放置しないことです。生ゴミはすぐ捨て、生花なども虫を引きつけてしまう原因になります。“増やさない”対策は、虫が好みそうな場所を出来るだけ少なくするよう、整理整頓、定期清掃などが必要です。

【IPM (総合的有害生物管理) の実践】

IPM (Integrated Pest Management) とは、総合的有害生物管理のことで、有害生物の薬剤のみによる駆除方法から、調査に基づく様々な防除方法を効果的に組み合わせ、薬剤による環境負荷も少なくしていこうという管理方法です。薬剤に頼りきらないだけに、日常的な予防対策が重要となります。

上述したような、虫・カビなど（相手）を知り→調査して→対策をたて→実行することは、IPMの基本と言えます。「対策をたて」る場合に、どれだけ選択肢が考えられるか、どれだけ効果的な組み合わせができるかが、カギとなるわけです。

(資料調査担当 野中 仁)



粘着トラップの設置



資料の定期清掃と点検作業



イベントインフォメーション

'06年11月～

事業名	主な内容	開催日時	会場	対象	費用	問い合わせ先
第1回 民俗芸能講演	郷土埼玉に伝承されている里神楽(さとかぐら)や木遣歌(きやりうた)を、各保存団体が上演。	11月5日(日) 13:00～16:00	彩の国さいたま芸術劇場 大ホール	一般776人 当日受付 (先着順)	無料	県立歴史と民俗の博物館 民俗文化担当 048-645-8171
県民の日 記念事業	衣服の歴史ファッションショーをはじめ、親子で楽しめる様々なイベントを開催します。	11月14日(火) 10:00～15:30	県立歴史と民俗の博物館	小・中学生他 一般	無料。ただし、特別展の観覧には観覧料が必要。	県立歴史と民俗の博物館 学習支援担当 048-645-8171
職人入門講座 「江戸組紐」 (中級)	組紐職人から直接学びながら制作します。	11月16日(木) ～17日(金) (全2回) 9:30～15:30	県立歴史と民俗の博物館	一般(20人) 毎回出席可能な方 往復ハガキに住所・氏名・電話番号(FAX番号)を明記し申込 11/2 必着	3,500円	県立歴史と民俗の博物館 民俗文化担当 048-645-8171 〒330-0803 大宮区高鼻町4-219
ぶらり文化財 「行田探訪」	県内の代表的な民俗文化財をめぐる見学会。今回は行田を訪ねます。	12月9日(土) 10:00～15:30	現地集合 ・現地解散	一般(50人) 11月9日から電話受付 (申込順)	保険料、観覧料など実費	県立歴史と民俗の博物館 民俗文化担当 048-645-817
ぶらり文化財 「鷲宮探訪」	県内の代表的な民俗文化財をめぐる見学会。今回は鷲宮を訪ねます。	19年2月14日(水) 10:00～15:30		一般(50人) 19年1月15日から電話受付 (申込順)		

わざの体験学習

～お囃子と神楽の伝承講習会～

民俗文化担当

7月中旬から9月末にかけて、県内を代表する民俗芸能の伝承者を招いた講習会が、当館講堂で開催されました。

今回行われたのは、☆秩父屋台囃子、☆神楽(オカメ、ヒョットコ)、☆江戸囃子、☆さんてこ囃子の4演目です。4日間あるいは2日間コースなど時間をかけて習熟度を高めるプログラムを組んだことが特色です。参加された皆さんが一体となって、伝統のわざに取り組む姿が印象的でした。



秩父屋台囃子の講習会風景

THE A MUSEUM

今年の4月に新しく生まれ変わった埼玉県立歴史と民俗の博物館、美術展示室と民俗展示室を新設し、博物館ボランティアによる展示解説や博物館裏方探検隊など、どなたでもお気軽に参加できる体験メニューもより充実したものとなりました。博物館をより身近に、より楽しくご利用いただくためのお役立ち情報です。

年間観覧券

ご購入当日から1年間、常設展示を何回でもご覧いただけます。

- 年間観覧券をご利用いただくと、次のような特典があります。
- 当館の特別展観覧料が割引になります。
- 近代美術館、史跡の博物館、自然と川の博物館の展示観覧券を割引でご購入いただけます。
- 当館のミュージアムショップ・カフェパティオのホット及びアイスコーヒーや、ホット紅茶が1割引になります。
- 料金は一般1,500円、高校生・大学生750円です。
- 博物館インフォメーションでお買い求めください。



年間観覧券

施設利用

講堂と講座室が利用できます。

- 講堂
面積：227.52㎡ 収容人員：162人
使用料：610円／1時間
 - 講座室
面積：60.48㎡ 収容人員：30人
使用料：160円／1時間
 - 付属設備使用料
音響設備 110円／1回
ビデオプロジェクター 810円／1回
- ❖ 利用申込みなどの詳しい内容は、当館のホームページをご覧ください。施設担当へお問い合わせください。
- 電話：048-641-0890 ファックス：048-640-1964

特別利用

資料写真の利用や写真撮影・熟覧ができます。

所蔵資料で写真原板があるものは、有料でご利用いただけます。また、保存上などの問題がない資料は、写真撮影や熟覧ができます。

熟覧	1点1日につき	1,200円
摸写・模造	1点1日につき	2,400円
撮影	1点1カットにつき	4,000円
原板使用	1点につき	3,000円

❖ご希望のお客様は、資料調査担当までお問い合わせください。

電話：048-645-8171 ファックス：048-640-1964



交通機関

東武野田線・大宮公園駅下車徒歩5分
JR宇都宮線・土呂駅下車徒歩18分

埼玉県立 歴史と民俗の博物館 (編集発行)

〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町4丁目219番地
TEL. 048-641-0890 (管理)
048-645-8171 (学芸)
FAX. 048-640-1964
<http://www.saitama-rekimin.spec.ed.jp/>



埼玉県立歴史と民俗の博物館だより
Vol.1-2 (通巻) 第2号
2006年10月1日発行